

2013年度 センター試験 世界史B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問2	<p>中華民国(段祺瑞政権)は、第一次世界大戦では連合側で参戦し、パリ講和会議にも参加したが、五・四運動で高揚した世論を受けてヴェルサイユ条約の調印は拒否したため、は誤文。また、ワシントン会議での九カ国条約の調印国には、中華民国自身が含まれることは、意外に忘れやすいポイントなので要注意である。</p>
	問5	<p>これは年号の数字よりも、事件の流れから攻めていく方が有効である。ローラット法は、第一次世界大戦直後にイギリスがインド自治の約束を無視したことへの反発を抑えるために制定した弾圧法規なので、第一次世界大戦以前のカルカッタ大会よりは後で、また1930年の第2次サティヤグラハ(1929年のラホール大会で決議)よりは前の事項。したがって、空欄cしかありえない。</p>
	問6	<p>ブラッシーがカルカッタ近郊すなわちベンガル地方(ガンジス川河口地域)での戦いだったという重要な認識があれば平易な問題である。ちなみにベンガル地方は、その東部がイスラーム教地域であり、のちに東パキスタン(1947) バングラデシュ(1971)となるため、現代史でも扱われる頻度が高い。地図上の位置もきちんと掴んでおくべきである。</p>
	問9	<p>これは、内容に関する誤文と時期に関する誤文を混在させた、センター試験らしい問題である。・ は内容面から誤文とわかるが、カナダはイギリス領では最初の自治領となった(1867)ため、油断していると をつい正文と誤認しやすい。しかし「イギリス連邦」とあるため、実は20世紀の内容。したがって誤文である。</p>
第2問	問2	<p>の朱印船貿易は、江戸時代初期(17世紀前半)に中国の私貿易商人との間で行われたものであり、時期が異なるため誤文である。正文の については、市舶司を唐が設置したことのみにとらわれず、それ以後も設置場所を増やしつつ存続したという認識があれば迷わないはず。なお は、草市は私設市場として唐末に出現し宋代にも存在した(その中から地方都市である鎮・市が生まれた)ので、時期については誤りではないが、同業者組合という内容が誤りである。</p>
	問3	<p>bの顧炎武は黄宗羲とともに明末～清初の人物であり、cの『永楽大典』は明の前半に編纂された。そのため、b cと配列せねばならない。</p>
	問4	<p>の「ニューオーリンズ」は、都市名がフランスのオルレアンに由来するもので、フランスが建設した都市であるが、入試問題としては細かい都市名であり、またオランダも北米植民地を持っていたことから、受験生には正誤の判断が難しい。しかし・ ・ が平易な正文であるため、それらを消去して を誤文だと絞り込めば正答は可能である。</p>
	問7	<p>キューバは現在でも社会主義国家であり、北米自由貿易協定(NAFTA)に加盟するのは不自然であると考えれば、 が誤文と見抜ける。しかし受験生の立場では、かなり意表を突いたポイントであろう。ちなみにNAFTA加盟国は、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの3国。</p>
第3問	問9	<p>かつてのアステカ王国の首都テノチティランの跡地は現在のメキシコの首都メキシコシティの一部になっているが、この細かいポイントを知っている必要はなく、インカ帝国という部分が誤りなので、誤文であることはすぐに判断できる。</p>
	問2	<p>マニ教はササン朝の初期に誕生し(3世紀) ササン朝からの弾圧を受け、一部はローマ帝国に流入した。以上の流れが理解できていれば、1世紀にローマ帝国で広まるはずはないとわかるため、bは誤文である。なお、マニ教はゾロアスター教やネストリウス派キリスト教とともに東方に伝播し、唐代の長安で広まり三夷教の一つ(摩尼教)とされたことが有名であるが、西方すなわちローマ帝国にも流入したことも確認しておきたい。さらにその影響として、教父アウグスティヌスが一時マニ教徒だったこと・中世最大の異端カタリ派に影響を与えたことにも注意を払いたい。</p>

第4問	問6	<p>センター試験に限らず頻出のポイントであるが、中世東欧の諸民族のキリスト教の区分は非常に重要である。この問題の はブルガール人=ギリシア正教という正文だが、第2問 - 問5のaでもセルビア人がローマ=カトリックではなくギリシア正教というポイントが使用されており、今年度は2箇所で使用されている。</p>
	問8	<p>イギリスの選挙法改正は、第1回では産業資本家層、第2回では都市労働者、第3回では農業労働者や鉱山労働者が選挙権を獲得したが、ここでは第2回と第3回の区別が求められている。これは、同じ労働者の中での種類であるから少し紛らわしいが、重要な頻出ポイントである。</p>
	問9	<p>第1問 - 問9の ではカナダが扱われたが、ここでも でイギリスの自治領に関する事項が用いられている。南アフリカ連邦の成立(1910)は19世紀ではないので誤文であるが、その成立は南アフリカ戦争(1899~1902)の結果であることから、成立自体の年号を記憶していなくとも20世紀であると判断することができる。なお、イギリスの第一次世界大戦以前の自治領の成立については、その順序も入試問題で頻出であるため、カナダ(1867) オーストラリア(1901) ニュージーランド(1907) 南アフリカ連邦(1910)という配列もきちんと押さえておきたいところ。</p>